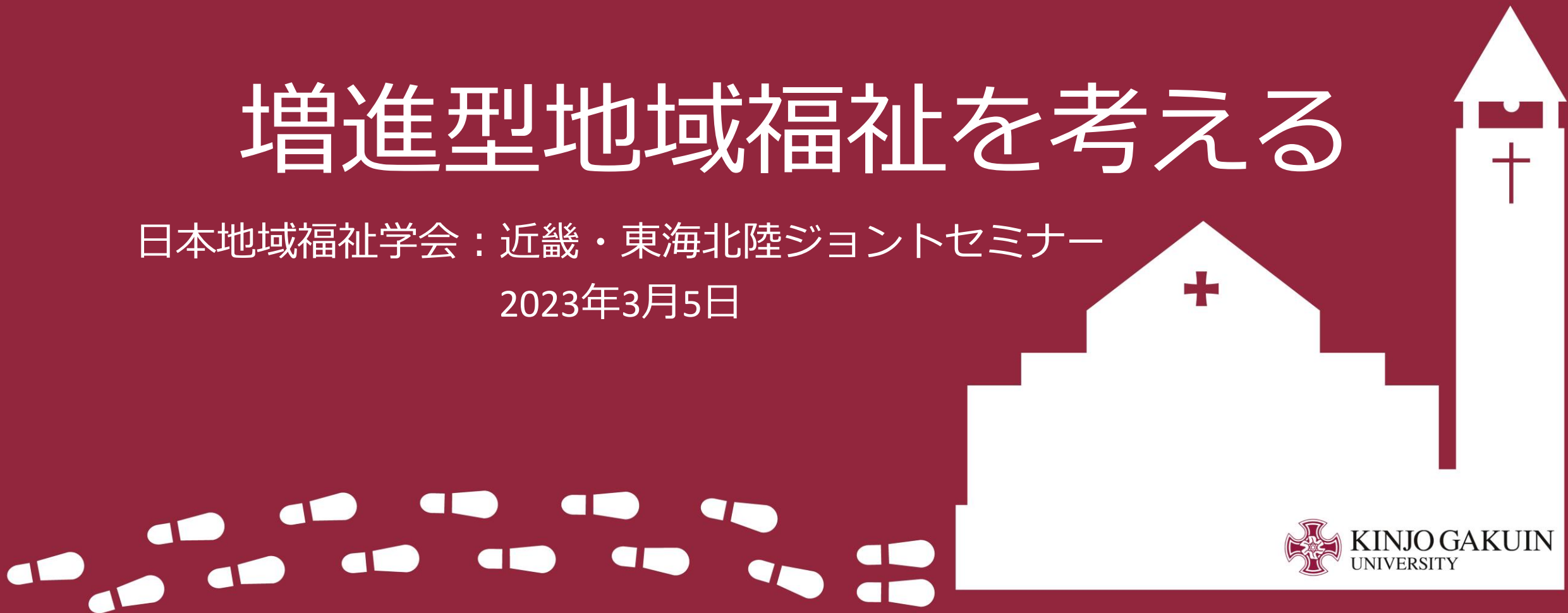


増進型地域福祉を考える

日本地域福祉学会：近畿・東海北陸ジョイントセミナー

2023年3月5日



開会：はじめに

朝倉美江（金城学院大学）

【現在の私たちの社会】

- **コロナ危機**
- **気候危機**
- **戦争**

- 格差が拡大し、貧困・生活困窮が増大：
非正規雇用の増加
- 孤立・差別の増加：引きこもり、弱者
（被保護世帯や外国人など）への差別
- 暴力・犯罪の増加（DV、虐待、詐欺・殺
人など）
- 人口減少による地方消滅
- 気候危機と自然災害（環境問題）の多発



コロナ危機のなか、明らかにになったこと

- 私たちの生活も地域も世界・自然とつながっていること！
- 一人だけ、自分の地域だけ、日本だけーなどの幸せはあり得ない！
- 「今だけ、金だけ、自分だけ」
(鈴木宣弘) となった資本主義の
限界

- 貧困・生活の脆弱さ：雇用の不安定：マスクがないということは海外の資源、労働者がいないと私たちの生活は良くなるならない。
- 虐待、自死、孤立の増加：地域にひきこもり・孤立した人がいるということは、そのような状況になった時、自分にも居場所はない！



増進型地域福祉

= 幸福を生みだす福祉への展開

- 一人が抱えさせられた問題は私たちの問題である。
- → その私たちとは誰か？
- 問題（不幸な状態）に焦点を当ててるのではなく、ポジティブな状態（幸せ）に焦点を当てるとは？
- 個人の自己実現は重要
- → しかし個々の自己実現が包摂的なコミュニティにつながるためには何が必要なのか？
- その人らしさとその地域らしさとの関係は？



増進型地域福祉誕生の経過と現状

- 小野達也（2016）「増進型地域福祉への考察」『社会問題研究』65
- 2017年に小野達也「増進型地域福祉の倫理的基礎の検討」日本社会福祉学会報告
- 2017年から6名の研究者による研究会（先行研究レビュー等）を開始した。研究会と並行して増進型地域福祉セミナー等も開催（現場との議論や実践の交流など）
- 科研費（2019年－2021年）
- 小野達也
- 朝倉美江
- 渡辺晴子
- 石川久仁子
- 岡野聡子
- 柴田学
- *現在、科研費(2022年－2024年)で方法論等の研究を推進中



2022年度日本地域福祉学会報告

- 小野達也：増進型地域福祉の考え方
- 朝倉美江：福祉文化
- 所正文：地域共生社会
- 渡辺晴子：地域包括ケアシステム
- 石川久仁子：居住福祉
- 岡野聡子：プレイス・ベースト・アプローチ
- 柴田学：社会的連帯経済



2022年8月出版



【基礎編と研究編と**実践編**】

ゆめ伴プロジェクト：**森安美**

ライフサポート協会：**原田徹**

御池台校区連合会：**戎谷悦子**

富田林市：**植田憲治**

堺市社協：**所正文**

ワーカーズ・コレクティブ運動・協同労働：**藤井恵里**



前半まとめ：増進型地域福祉とは 小野達也

【二つの理念】

- ①幸福の実現をめざす
- ②現場での対話を基礎に進めていく：ともにつくる！

【増進型地域福祉の基礎】

- 幸福としての福祉
- ウェルフェアとウェルビーイング
- 福祉とエージェンシー：「生活の良さ」と「その人らしい生き方の実現」



増進型地域福祉の実践

- 所正文（堺市社会福祉用議会）
- 藤井恵里（愛知ワーカーズ・コレクティブ連合会）
- 地域共生社会に向けた増進型地域福祉の推進
「地域や福祉にまだ関心がない層」の住民に向けてのアプローチ
- ワーカーズ・コレクティブ運動、協同労働がつくる増進型地域福祉



増進型地域福祉の活動方法

- 堺市社協：市内全域で小地域ネットワーク活動を展開
- ⇒注目しているのが「子ども食堂」（私にもできる、にぎわいづくり）
- 文化芸術とのコラボ「おもしろい、楽しい、やりたい」
- ワーカーズ・コレクティブ：多様な働き方の実現
- ⇒地域で必要とされ、やりがいがある仕事：介護、子育て、配食、薬局、造園など
- 誰もが働きやすい、緩やかな働き方、生涯現役など



増進型地域福祉の5つの特性（小野）

- 理想実現主義：マイナスからゼロではなく、理想・夢を描く
- 目的実現型：問題解決型ではなく理想を描いてそれに向かう
バックキャストイング
- 対話：「対象化」しない、共同的・相互主観的アプローチ
- プロセスの大切さ：プロセス自体を楽しむ、喜び・豊かな取り組みを
- 相互実現：個人の幸せと地域社会の幸せを統合的に目指す。
地域の持続可能性も



質疑・まとめ：増進型地域福祉の課題と展望

【課題】

- 増進型地域福祉の方法論の確立
- 増進型地域福祉実践の蓄積と方法論の確立

【展望】

- 地域共生社会の実現のための推進への挑戦・試行など
- 労働者協同組合法（2022年10月施行）の普及・活用
=協同労働で地域づくり



増進型地域福祉をみんなで試行錯誤

- 最低限保障から幸せづくりへ
- 理想を描き、そこに向かう
(バックキャストイング)
- 傾聴から対話へ (対等性)
- 寄り添いから共に (協同)
- 居場所づくりから「地域の居場所づくり」へ
- 一瞬、一瞬、今、その時間を大切に：共有の楽しい時間の積み重ねが私たちの生活・人生の豊かさとなる。
- 「私たちらしく」が、私たちが生活し、活動・労働する「地域（場・空間・つながり）らしさ」をつくる



増進型地域福祉は分断社会を超えられるのか？

- 個人と同時に地域に焦点をあてる。どんな地域にしたいのか。
- ⇒個人を中心にして環境を考えるのではなく、「地域のなかに個人が存在（人は相互関係として存在）している」と考えることで地域の幸せづくりが個人の幸せづくりに！
- 雇用問題ではなく、ワーク・ライフバランスの問題⇒労働と生活を地域のなかで協同で！
- コミュニティのもつ同一性ではなく異質性を大切にする。
- ⇒「多様」な人がいること、自身のなかにも多様な側面があること、そのことを理解しあうことによって生まれる「寛容性」
- 地域の協同活動は、楽しい、面白い、地域の文化を豊かにする。
生き方の選択肢を増やす。



ありがとうございました！！

増進型地域福祉—
幸福を生みだす福祉を
広げていきましょう！

